

身近な水の流れを何と呼んでいるだろうか。

私が子供のころ、祖父母の家に遊びに行ったとき、家の裏には「川」と呼ばれる流れがあった。この川は幅1.5ほど、小さい子供が飛んで渡れるかどうかという絶妙な幅で、夏場には中に入って小さな魚やザリガニを追いかけた。川には、夏には多くの水が流れ、冬はほとんど流れていなかった。

この川が、実は農業用の水路であると知ったのは、恥ずかしながら大学に入って農業農村工学の専門の勉強を始めてからのことであ

水田の宅地転用と農業用排水路

ぶために張り巡らされている。農業用の水路の目的は、主に水田でコメを栽培するために必要な水環境を調節することである。

農業用の水路は、農地に水を運ぶ「用水路」と、農地から流れ出た水を運ぶ「排水路」に分類される。用水路と排水路では役割が異なるため、流れる水量の変化の仕方が異なる。用水路は水田で水が必要な時期（かんがい期）、すなわち田植えの準備（5月頃）から収穫前（9月頃）の期間に水量が多く、それ以外の時期（非かんがい期）には水量が少ない。一方、排水路は、普段は水量が少なく、雨が降ると水量が多くなり、近年頻発するゲリラ豪雨のような大雨時には一時的に溢れることもある。水

田の宅地への転用については広く認識されている。一方で、宅地へ転用された後も農業用の水路はそのまま維持されているというのは、ほとんど意識されていないのではないかと思う。農業用の水路は、もしその周辺に水田がなくても、下流の水田に必要な水を運ぶ、もしくは上流の水田からの排水を集めるという機能を果たしている。

住宅地の水環境調整機能も

った。

我が国にある農業用の水路の全長は約40万キロ。なんと地球10周分に相当する。国土の隅々まで水を通



岐阜大学応用生物科学部生産環境科学課程環境生態科学コース准教授

乃田 啓吾

田の水は繰り返し使われる（反復利用）ため、ある地区の排水路に集められた水は、それより下流の地区では用水路として利用されている。

ここまで読んで、今、読者のみなさんはどのような風景を思い描いているだろうか。

30年前、冒頭で紹介した祖父母の家の裏の川は、住居のある地区と水田のある地区の境界を流れていた。

のだ・けいご 水環境学。東京大学博士後期課程。1998年生まれ。

